

来るべき巨大災害に備えて

防災スペシャリスト養成研修



内閣府(防災)

中央防災会議「防災対策推進検討会議」の最終報告(平成24年7月)で、災害発生時対応に向けた備えの強化として「職員の派遣・研修を含む地方公共団体との連携体制の充実」、「国・地方の人材育成・連携強化に資する防災訓練等による国・地方を通じた防災体制の充実」、「政府の防災部門と地方との人事交流の機会の拡充等による国・地方を通じた危機管理の経験職員の増加」を図るべきとの提言がされました。

これを踏まえ、内閣府(防災)は、国、地方公共団体、指定公共機関の職員を対象とした、受講者の経験や能力に応じた災害対応業務を遂行する上で必要な知識やスキルを習得する「防災スペシャリスト養成研修」を実施します。

SCHEDULE

スケジュール

- 幹部コース 幹部職員を対象としたコース
平成26年2月12～13日 (2日間)
- 防災中堅コース 防災中堅職員を対象としたコース
平成26年2月17～20日 (4日間)
- 防災一般コース 防災一般職員を対象としたコース
平成26年2月4～7日 (4日間)
- 総合コース 総合的なスキルアップのためのコース
平成26年2月24日～3月7日 (10日間)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
2	3	4	5	6	7	8
2月		防災一般				
9	10	11	12	13	14	15
			幹部			
16	17	18	19	20	21	22
	防災中堅					
23	24	25	26	27	28	1
	総合					3月
2	3	4	5	6	7	8
	総合					

■ **会場** 有明の丘基幹的広域防災拠点施設
東京都江東区有明3丁目

● **アクセス**
りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分。
ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分。



有明の丘基幹的広域防災拠点施設は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区(川崎市)の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

CURRICULUM

カリキュラムは、防災に関する第一線の研究者や国や被災経験のある自治体の実務家の講義に加えて、過去の災害の経験や教訓、研究成果を踏まえた様々な演習から成り立っています。

■ 幹部コースのカリキュラム構成

項目1 被災社会の実態

- 近年の主要災害から被害の実態と課題、教訓を知る

項目2 災害対応事例と教訓

- 災害対応経験首長等による講演
- トップ等の果たすべき役割とリーダーシップの重要性を理解する

項目3 災害対応のあり方

- 災害対応経験首長等と参加者の討論
- トップ等の果たすべき役割とリーダーシップの重要性を理解する

項目4 リーダーシップ論

- トップ及びその補佐者としての責任と役割、心構え、立ち振る舞いについて理解する

項目5 目標管理型組織運用論

- 目標管理型意思決定システムについて理解する

項目6 目標管理・意思決定

- 状況が変化の中で将来を見通しつつ、各種課題に対する対策方針を決定する能力を養う
- 演習を通じて、トップ及びその補佐者としての判断、意思決定の考え方の理解を深める

■ 総合コースのカリキュラム構成

項目1 被災社会の実態

- 近年の主要災害から被害の実態と課題、教訓を知る

項目2 災害対応総論

- 応急期の災害対応の流れと主な災害対応業務との関係を理解する
- 復旧・復興プロセスと主な業務との関係を理解する

項目3 応急対応業務

- 予警報の伝達の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 避難所開設・運営の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 要援護者への支援の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 救援物資調達・配布の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 応急仮設住宅の建設と運営の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 被害認定及び被災証明発行の実態と課題、ポイントを学ぶ

項目4 復旧復興業務

- 生活再建のための支援の枠組みと実施上の課題及びポイントを学ぶ
- 災害廃棄物処理の実態と課題及びポイントを学ぶ
- 復興体制と復興計画策定上のポイントを学ぶ

項目5 組織運営マネジメント論

- 効果的な災害対応を行う体制と運用の基本的な考え方を理解する
- 情報リテラシー、情報収集・整理の意義とその手法を理解する
- 目標管理、対策立案、意思決定手法の意義とその手法を学ぶ
- 効果的に関係機関間で相互調整を行うための実施手法を理解する
- 効果的に情報伝達、情報共有を行うための手法を理解する
- 情報分析に基づく対策立案から首長の判断に至る流れを理解する
- 適切な情報伝達や広報の進め方とポイントを理解する
- 災害時の情報伝達・広報の方法を身につける

項目6 総合図上演習

- 実演を通じて、総合的な災害対応能力を身につける

項目7 防災減災論

- 防災・減災の考え方を学び、事前対策の取り組みの必要性を理解する

■ 防災中堅コースのカリキュラム構成

項目1 被災社会の実態

- 近年の主要災害から被害の実態と課題、教訓を知る

項目2 災害の社会的影響

- 近年の主要災害から被害の実態と課題、教訓を知る

項目3 災害対応総論

- 防災関連法と責務権限の範囲を理解する
- 国・都道府県・市町村・防災関係機関の災害対応の流れを理解する

項目4 国、防災関係機関、住民・企業等の災害対応

- 内閣府など国の災害対応の実態と課題を理解する
- 指定地方行政機関などの災害対応の実態と課題を理解する
- 自主防災組織、ボランティア、企業等の災害対応の実態と課題

項目5 都道府県・市町村の役割と連携

- 都道府県と市町村の役割と相互連携についての理解を深める

項目6 組織マネジメント総論

- 災害対応業務管理と運営の考え方を理解する

項目7 災害対応業務管理

- 災害対策本部運用の実態と課題を理解する
- 避難所運営、食料・物資調達、輸送等の活動実態と課題を理解する

項目8 業務管理手法

- 情報リテラシー、情報収集・分析・整理の手法を理解する
- 目標管理、対策立案、意思決定の手法を理解する
- 関係機関相互の調整・連携の手法を理解する
- 情報伝達、情報共有、状況認識の統一の手法を理解する

項目9 災害対応従事者としての基本

- 上司への助言、業務管理、安全・衛生管理など、中間管理職として必要な知識や心構えを理解する

■ 防災一般コースのカリキュラム構成

項目1 被災社会の実態

- 近年の主要災害から被害の実態と課題、教訓を知る

項目2 災害発生のメカニズム

- 地震・津波・風水害・火災の発生メカニズムと被害を理解する

項目3 災害の社会的影響

- 市民の生命と生活に直接影響を及ぼす事態と対応を理解する

項目4 防災関連法と計画の体系

- 防災関連法の全体像を知る
- 地域防災計画等の枠組みを知る

項目5 災害時の行政の役割と対応

- 国・都道府県・市町村の責務と役割を理解する

項目6 災害対応基礎

- 災害対応の体制と対策本部組織の役割を理解する
- 災害対応の流れと主な災害対応業務との関係を理解する
- 災害対応経験者から災害対応の実態を学ぶ

項目7 防災減災基礎

- 防災及び減災の考え方と基本的な対策を理解する

項目8 災害対応従事者としての基本

- 自治体職員としての責務や役割を果たすための心構えを理解する

実施主体



企画・運営



阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター

Science Craft
株式会社サイエンスクラフト

■ 研修の受付・お問い合わせ : 明治大学危機管理研究センター

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL.03-3294-5121 FAX.03-3294-5126 E-mail: bosai@meiji.ac.jp